

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171901514), 法人名 (有限会社 神居寿々蘭の里), 事業所名 (グループホーム喜 ユニット2), 所在地 (旭川市高砂台8丁目 3番10号), 自己評価作成日 (令和元年8月10日(土)), 評価結果市町村受理日 (令和元年11月11日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kiho_n=true&JigyosyoCd=0172901514-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年10月4日(金))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当自事業所の介護理念(自立、笑顔、思いやり、尊厳)に基づき、出来る事は見守り、出来ない事は一緒に行動しながら、家庭的な環境のもとで、共に寄り添って生活出来る様、努めています。施設は小高い丘陵地にあり、春は満開の桜、夏は火花など、四季を楽しみながら、ゆったりとお過ごし頂ける環境です。また、運営推進会議に参加された方々の意見を参考にしながら、地域の方々との交流を大切にしています。今年度より、近隣で運営されている、認知症共同居住事業所と連携を取り、災害時の避難所としての受け入れも、実施する事になりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、古くから市民の憩いの場となっている高砂温泉と並ぶように建てられており、昔は旅館として営業していた事もある建物を利用し、事業を行っている。地域一帯は風光明媚で知られており、事業所からは市内が一望できる。春の桜は有名で、夏は火花大会が窓から楽しみ、秋の紅葉、白銀の冬と四季折々が目の前で展開され、利用者の日々の楽しみとなっている。創立は2004年と今年で15年を経過し、地域に溶け込んだ事業所となっている。当事業所の優秀な点は、眺望の良さをまず挙げてみたい。居室の大部分が見晴らしの良い方向に作られており、季節の移ろいや朝晩の色合いが利用者の生活に変化を与えて、落ち着いた日々へ導いている。次に地域で事業を展開している他法人の同業者との連携に注目したい。同一生活圏に運営母体が異なる7つの事業所があるが、各運営推進会議への相互参加や、災害時での避難所の提供、援助活動、非常食の配布等々、相互で協力し合える体制が確立し、どの様な事態でも相互のお年寄りを守る事を主眼とし活動している。今後も事業所内の取り組みを活性化させながら、地域全般の諸問題にも取り組んでいく姿勢を大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念に基づき、地域の皆様との交流を、職員一丸となって取り組んでいる。	開設より、自立、笑顔、思いやり、尊厳、の4項目を介護理念として掲げ、利用者や家族、関係者に提示し、職員はその理念を共有し、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や地域の行事にも積極的に参加している。	開設して15年が経過し、地元町内会の行事等に参加しながら交流の維持を図っている。また地域で事業を運営している同業者との結束も強く、研修会を開催したり、お互いの事業所を避難先として提供したり、地域貢献を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、認知症に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて参加者の意見を取り入れて、施設の運営に反映する様、努めている。	運営推進会議には、包括や行政、家族、地域代表、近隣の同業者と多彩な参加で定期開催している。行事報告が中心だが、現状の課題等もありサービス向上に努めている。	運営推進会議の特性上、第三者の参加と情報公開が主要になると思われ、事故やヒヤリハットも報告に入れながら、議事録についても関係先から家族宅まで配布できる様、継続的取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当部署とは常に連帯を密にし、介護高齢課の担当者には運営推進委員として参加を頂いており情報交換を行っている。	行政窓口とは、制度の解釈や法の疑義について何時でも問い合わせが出来る関係が維持されており、担当者との情報交換もスムーズに行われ、信頼性のある連携が確保されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、入所時に家族との話し合いで合意を頂いてる。その他は、身体拘束廃止検討委員会で検討し、対応している。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に事例等を検討し、直近の職員会議で周知徹底している。職員は拘束や抑制の不都合性を十分に理解しており、拘束や抑制等の制限とは無縁なケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに、情報、防止に努めている。特に言葉遣いによる虐待。研修や勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会へ参加させて頂いた事を参考にし、身上監護や財産管理には注意を払っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学及び契約時に、契約書及び重要事項に基づき詳しく説明し、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、その時々に応じて、意見や要望を頂いている。	家族が来訪する際に、詳しく日頃の生活の様子を伝え、意見や苦情を聞き取っている。また外部の機関により2年に一度は、サービス満足度調査も実施し、サービスの点検を行いサービス向上に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、他を通じ、反映させている。	月に一度のスタッフ会議や毎日の申し送りで、職員からの提案や工夫を話し合い、日々の実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部と連携し、資格の習得に向けて、情報提供等の配慮を行っている。又、勤務体制変更等にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会へ積極的に参加できるよう、配慮に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神居地区のグループホーム研究会、又は、複数事業所との合同の研修を受講し、意見交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の経歴や生活歴を知る事により、コミュニケーションを取り、要望や不安な事を受け止める努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族との信頼関係を築くため、利用者様の情報を伝え要望を聞き、早期に対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のアセスメントを行い、必要とする支援を職員、家族と話し合い対応を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合いを意識し、信頼関係を築く事を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、利用者様と家族の交流が出来るような関係を築ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、冠婚葬祭への出席についても参加できる様に配慮しています。	冠婚葬祭への出席が相次ぎ、家族の協力を得ながら支援している。また馴染んできた食べ物も、味付けや食材に留意し、昔から好きだった馴染んでいる関係等が、事業所の都合で途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が把握して、利用者様同士が気楽に話し合えるように配慮している。(レクリエーションや談話室の利用)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族であっても、希望者には施設の行事へ参加を呼び掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをせず、思いや意向を把握し、意思疎通が困難な時は家族からの情報提供を頂いている。	毎日の生活を支える事で、知り得た希望や意向、好き嫌い等を職員全員で把握・共有し、本人本位の生活になるよう努めている。また意向を具体化してケアプランとして実践化している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人との会話を十分に行うことはもとより、家族からも情報の提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状況、個々のリズムを把握して、関係者から聞き取りを行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、職員会議などで打ち合わせをして、家族の意向を聞き入れ話し合い、現状に即して計画作成をしている。	担当者を中心にカンファレンスやモニタリングで内容を検討し、家族の同意を得ながら実践的なケアプランを作成し、日々の介護日誌にも記入して目標達成に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については、個人のファイルに記録を記入し、申し送りで報告し、情報の共有を図り、実践、介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の意向を確認しながら、サービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活環境を有効に生かして、安心、安全に日常生活を送れる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から病気や主治医との関わりを密に相談できる関係作りを努めています。特に医師から直接、治療方針を得て、本人の回復に努めている。	送迎付きの協力医がかかりつけ医の場合が多いが、従前のかかりつけ医の受診にも介護員が必ず同行している。また訪問看護も必要に応じて活用し、安心できる医療体制で日々の介護に臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医等とホームの看護職員が連携して、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院職員との関わりは良好で相談できる状況にある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に十分に話し合いを行っており、施設で出来る範囲を確認している。又、家族が希望すれば、医師、家族、施設で話し合い、終末医療対応も可能である。	終末期の介護について、医療的な対応を含め限界があることを契約時に説明し同意を得ている。本人や家族が望めば、医師の協力によりある程度までの介護はやり遂げる方向で、支援に取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護ステーションの活用や、職場内外研修を行い、知識の取得に努め、万が一に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害の避難訓練を年2回実施し、対応できる体制作りを努めている。運営推進会議等、地域にも、協力体制をお願いしている。	災害訓練を年に2回実施しており、避難先も同業者同士で相互利用しようと確認済みである。また自家発電も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の性格を十分に理解し、お互いにコミュニケーションを取りあえる関係作りに努め、特に利用者様、ご家族の話聞き尊重している。	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、トイレの内側にカーテンを用意するなど、いつでもどこでも礼を忘れないようにと話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様と信頼関係を築き、お互いにコミュニケーションを取り、希望を理解できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の視点に立った介護を心がけている。利用者様の希望、要望を聞き、本人のペースで生活出来るように介護している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿った身だしなみを心掛けている。月に1回訪問理容を利用し、配慮している。化粧品他、の購入も家族と相談しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を利用したり、調理しながら、季節感を十分に味わって頂けるよう努めている。食事の色合いにも気をつけている。	管理栄養士が献立を作り、現場で多少アレンジをしながら、一人ひとりに合った食事になるよう工夫している。職員も食卓を囲み、明るい食事風景になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養士が献立を作成。栄養のバランスに気をつけている。1日の食事量や水分摂取量について、個人チェック表に記載。必要に応じて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施し、常に汚れや臭いが無い様に支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを知るにより、トイレで排泄がスムーズに出来るようにする。自立排泄に向けた努力を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本として、一人ひとりの仕草やサインを見逃さずにトイレに誘導し、また定期的に時間でも声掛けしながら、自然な排泄になるように努めている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないような献立を栄養士が作成。日中は適度な運動(散歩等)を行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回と決めているが、体調や気温、通院状態等に応じて考慮している。	週に2回を入浴日と決めているが、突発的な事項や急な外出、発熱での延期も含め、シャワー浴等に対応するなど工夫を凝らした支援をしている。日中帯の入浴を考慮し、浴室には大きな窓が採えられ、楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握して、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服薬状況を共有し、直接口に入れて、完全に服薬した事の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でそれを活用し、お手伝いや遊び、レクリエーション等に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に施設周辺の散歩や、近所の公園にも出掛けている。又、利用者様の希望により近所の商店へ買い物に出掛けたりもしている。	事業所が丘陵地にあるため、長距離の散歩は困難であるが、庭先や駐車場等への散歩は天候を見ながら行なっている。家族とも協力しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら買い物して頂けるように支援を行っている。出来ない方には職員がお手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの手紙を渡している。又、電話等の依頼があれば外部との連絡が出来るように、お手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋からの展望は市内が一望でき、四季折々の景観が楽しめる。食堂や娯楽室は利用者同士の交流の場として、安心して過ごして頂けるように工夫している。	旅館を改造した造りで、各部屋から市内が眺望でき、四季の移り変わりや、繁華街の夜景、花火大会も楽しみ、利用者や家族から好評を得ている。食堂と居間も広く、温度や湿度も適切に管理されており、また廊下にはだれでもが寛げるよう、ソファを置いたコーナーもあり、気兼ねなくゆっくりと過ごせるように工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、喫煙室、談話室を活用して、気分転換が出来るように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の広さを活用し、自分なりに好きなように家具を配置したりして、居心地のいい空間作りをしている。	各自の部屋は、広くゆったりと作られており、ベットが備え付けられたり、馴染みの家具類等も置かれ、また壁には家族写真も貼られるなど、ゆっくりと過ごす、居心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、自由に安全に行動出来るように配慮している。フラットで無駄なものを廊下に置かず、安全に配慮している。		